

「秋田大学学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日：2012年7月30日

所属：教育文化学部 国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修 4年次

氏名：長内 亨太

派遣先大学名：ブカレスト大学（ルーマニア）

在籍身分：交換留学生

派遣期間：2011年10月～2012年6月

渡航年月日：2011年9月26日

帰国年月日：2012年6月30日

○派遣先大学における授業等の履修状況

No.	授業名	単位数		授業時間（週）	
		1学期	2学期	講義	セミナー
1.	Structure of English Language. Syntax of Complex Sentence(III B)	4		2時間	2時間 (隔週)
2.	Practice of English Language(II B)	4		2時間	2時間
3.	Structure of English Language. Phonetics and Phonology(I B)	4		2時間	2時間 (隔週)
4.	Practice of English Language(III B)	2		2時間	
5.	Structure of English Language. Morphology(I B)		4	2時間	2時間 (隔週)
6.	Structure of English Language. Syntax of Root Clause(II B)		4	2時間	2時間 (隔週)

○研究・学習概要及び今後の勉強計画

私がブカレスト大学で受講した授業の内容としては、文法問題や長文読解などの演習や、映画等を鑑賞し感想を述べ合うような実践的な授業と、英語の言語学を学び隔週のセミナーで学期末に実施される最終試験の対策を行う講義型の授業と、大きく分けて2種類あります。英語は第二言語であるにも



友人とのディスカッション

かかわらず全ての授業を通してレベルが高く、また日常では使わない専門用語を多用する内容になかなかついていけませんでしたが。それでもルーマニア人の学生が当たり前のように英語で受け答えしているのを見ると、同じ第二言語を学ぶ学生として、日本人だからという言い訳は通用しない、負けたくないという気持ちが強くなり、必死に勉強しました。その結果、英語で受け答えすることに不安やためらいを感じなくなり、今ではもっと英語を学びたいという気持ちが強くなりました。

今後としては、留学で得た経験を生かし英語を使う職に就きたいと考えています。そして仕事をする傍ら、英語だけでなく他の言語にも挑戦し、日々の勉強を続けていくつもりです。

○生活面について

留学期間中は寮に住んでいました。3人部屋にフランス人の留学生と2人で5カ月ほど、その後もう一人フランスから留学生がやってきて3人で4カ月過ごしました。ルームシェアするのは初めてだったので戸惑うことも多々ありましたが、お互いの国について、外国人として見えるルーマニアについてなどを語ったり、一緒に食事に行ったりして、仲を深めることができました。

フランス人のルームメイトと一緒に



また、現地の学生ともたくさん交流を持つことができました。授業の合間にカフェに行



ったり、テストが終わってみんな飲みに行ったり、一緒にバスケットボールをしたりして、いろいろな人と出会い、お互いに話し合い、笑い合いながら充実した日々を送ることができました。帰国してからも連絡を取り合っていて、今ではかけがえのない友人となりました。

ブカレスト大学の友人たちと

○その他留学全般にわたる感想

今回の留学を通して、本当の「勉強」とは何かを見つけることができました。留学前は、テストや進学のために勉強していたのが、文化も価値観も言葉も異なる環境に身を置くことで、生きるために勉強するようになりました。それは単に机に向かう勉強ではなく、いろいろな場所を訪れ、いろいろな人の話を聴き、生きるために必要な知識を手さぐりで探す、ということです。留学中は毎日生き残るために必死でした。それはおそらく日本では経験



できないものだと思います。そこを生き残るために努め、それが充実した日々となり、実りある人生を送ることにつながるのだということを学びました。

今回この私の留学を支援してくださった皆様、先生方、ブカレスト大学の学生のみなさんには大変感謝しております。どうもありがとうございました。

ブカレスト大学でのバスケットボール



寮の屋上から